

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-8527

住所 川崎市川崎区駅前本町3番地1

氏名

川崎アゼリア株式会社

印

代表取締役社長 浅岡 浩

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	川崎アゼリア株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区駅前本町26番地2		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の種類	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	主として店舗の賃貸管理及び広告業、物品販売等の事業並びに地下駐車場・公共地下歩道の管理運営等の事業を行っている。		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		3,718 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2023 年度)	(2024 年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 7,521 (調) 7,465	(実) 7,473 (調) 7,473	(実) 6,934 (調) 6,130	(実) 6,486 (調) 6,486	(実) 7,295 (調)
削減率		(実) 0.6 % (調) -0.1 %	(実) 7.8 % (調) 17.9 %	(実) 13.8 % (調) 13.1 %	(実) 3.0 % (調) %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	面積				原単位等の単位	t-CO2/m ²
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2023 年度)	(2024 年度)		
排出量原単位等の値	0.1322	0.1314	0.1214	0.1136	0.1282	
活動量の値	56,866	56,866	57,088	57,088	-	
排出量原単位等の削減率		0.6 %	8.2 %	14.1 %	3.0 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2021年度の運転実績を基に空調機設定温度や冷温水発生機運転方法等を検討、電気使用量で前年比9.5%減少、ガス使用量で前年比11.8%増加となった。全体としてCO2排出量は基準年度比0.6%の減少、原単位は基準年度比0.6%の減少となった。
第2年度	空調機運用の抜本的な見直しをおこない、冷温水循環ポンプの流量制御、空調機の周波数制御、熱源の自動制御、送排風機の不要運転抑制などで電気使用量を前年度比8.43%減した。ガスは冬季の暖房運転のみなおして2.27%減。全体としてCO2を基準年度比7.8%減、原単位を8.2%減少させた。
第3年度	第2年度からおこなっている空調機運用の見直しを継続したことに加え、冬季の暖房熱の運転のさらなる見直しで、並行して運用する冷房機器の運転を抑制した。この結果として、CO2を基準年度比の排出量を13.1%減させた。
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	計画年度途中でエコチューニングをおこなうことで当初見込よりも大幅に電気使用量の抑制を図り、もって二酸化炭素排出量を目標以上に削減した。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	調整によるエネルギー抑制は大きく進んだ。今後は設備更新など投資による省エネ活動をおこなうことで更に一段上の脱炭素を目指す。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>1. アゼリア基本対策 (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備する。 (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にする。 2. 目標対策 (1) 冷却水ポンプのインバータ化 (2) エアカーテンの増設 (3) 照明のLED化(広場照明をエバーライト→LED化) (4) 機能保全を目的とした機器更新(空調用ファン高効率機器更新)</p>
<p>第1年度</p>	<p>1. アゼリア基本対策 (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備する。 (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にする。 2. 目標対策 (1) 冷却水ポンプのインバータ化⇒未実施 (2) エアカーテンの増設⇒未実施 (3) 照明のLED化(広場照明をエバーライト→LED化) ⇒寿命による交換タイミングでLEDへ交換 (4) 機能保全を目的とした機器更新(空調用ファン高効率機器更新)</p>
<p>第2年度</p>	<p>1. アゼリア基本対策 (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備する。 (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にする。 2. 目標対策 (1) 冷却水ポンプのインバータ化⇒未実施 (2) エアカーテンの増設⇒未実施 (3) 照明のLED化(広場照明をエバーライト→LED化) → 実施済 (4) 機能保全を目的とした機器更新(空調用ファン高効率機器更新) → 未実施</p>
<p>第3年度</p>	<p>1. アゼリア基本対策 (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備する。 (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にする。 2. 目標対策 (1) 冷却水ポンプのインバータ化⇒未実施 (2) エアカーテンの増設⇒未実施 (3) 照明のLED化(広場照明をエバーライト→LED化) → 実施済 (4) 機能保全を目的とした機器更新(空調用ファン高効率機器更新) → 未実施</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>目標達成のための取組が、ほぼ未実施になってしまった。一方で代替としてのエコチューニングでエネルギー使用は大きく減らした。次期の計画は実行性が伴うものを立案し、粛々と進められるよう十分に配慮する。なお組織的な体制整備は問題なくおこなえた。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	当該設備は地下施設のため、再生可能エネルギー設備を設置することが出来ない。
風力	○	同上
バイオマス	○	同上
未利用エネルギー	○	同上
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	特になし
第1年度	特になし
第2年度	特になし
第3年度	特になし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	特になし
第1年度	特になし
第2年度	特になし
第3年度	特になし

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	7,521 t-CO ₂	7,473 t-CO ₂	6,934 t-CO ₂	6,486 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	4,190 KL	4,086 KL	3,789 KL	3,718 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
川崎地下街 アゼリア	川崎市川崎区駅前本町 2 6 番地 2	7,508	7,456	6,918	6,472

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度